The Okayama University Library Bulletin
岡山大学附属図書館報
ISSN 0911−5587

楷

No. 8 March 1989

脱「指示待ち族」

岡山大学学生部長　坂田　注

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

平素の努力が報いられ、晴れて岡山大学の学生としての第一歩を踏み出された皆さんを、心から歓迎いたします。

皆さんは、今すがすがしい解放感とともに、あれもしようこれもやりたいという期待に胸をふくらませていることと思います。好きな学問は言うまでもなく、旅行・スポーツ・ドライブ……等、数えきれないかも知れません。そうです。青春は人生に一度しかありません。いろいろな可能性にチャレンジしてください。受験勉強の疲れを癒すため、一時羽を休めるのも良いでしょう。しかし、一日中寝たり起きたりで、その間にテレビを見る日の連続になっては困ります。新しい生活への弾みをつけ、多彩な学生生活のスタートをきらなければなりません。

幸い岡山大学は、広大で緑に囲まれ、他大学の追随を許さない豊かな自然環境に恵まれています。加えて秀れたスタッフや先輩が皆さんのアタックを待っています。後年、岡大時代を振り返った時、悔いのない素晴しいものであることを祈っています。

翻って皆さんと同じ年齢の頃の私を想い出してみますと、昭和20年（1945）に溯ります。原爆の投

目　次

・脱「指示待ち族」……1
・図書館で本を探すには
　—分類番号ってなんですか—……3
・利用者の声……5
・私の本棚から……6
・池田家文庫シリーズ④
　「奉公書」の世界……7
・係の紹介　総務係……9
・電光掲示板……10
・日誌・その他……10

下（8月6日）で、70年は草木も生えないと当時言われて、全くの焦土と化した広島市。その駅前に投下2カ月後、私は立っていました。二、三の焼けただれたビルをのぞいて目に入ったものは、瓦礫また瓦礫でした。呆然としている私の目にふと止ったのは、電車道路の向うにポツンと一軒だけ建っている掘っ建て小屋でした。近づいてみると、なんと本屋でした。予想外の出来ごとだったので非常に驚きました。というのは、周囲の状況から察して、食べ物とか衣類しか想像出来なかったからです。まるで砂漠の中のオアシスのようでした。

引き込まれるように入った私は、数十冊しかない本を眺めて、日本再生への原点を覗き見た感じがしたものです。その一年後「解析概論」をその店で見つけ手に入れました。この一冊の本との出会いが、のちのち私に与えた影響は少なからぬものがあります。この本を繰り返し繰り返し読むことによって、数学の世界に引き込まれていきました。

“よく学び、よく遊べ”という不朽の名言がありますが、“学ぶ”ことの第一歩は、“読む”ことであることは異論がないと思います。また、本を読むということは即ち“考える”ということにつながります。映像文化がどのように発達しても本が消えないのは、本は“考える糧”であるからです。生涯教育が叫ばれている今日ですが、じっくりと読書が出来るのは学生時代を除いてありません。この感受性に恵まれ、柔軟な思考力を備えている学生時代に良書に恵まれることほど大切なことはありません。先人の多くに、一冊の本が、その人の人生を左右したり、また座右の書として深い影響を与えた例があります。良書は自ら求める場合もありますし、偶然が与えてくれることもあります。しかし幸いに皆さんは秀れた先生方や先輩に囲まれています。その方々のご指導により本との出会いを求めることも出来るのです。岡山大学の広い芝生に寝ころんで、読書し、友と語る一瞬も捨てがたいものです。一冊の本をめぐって夜を徹して論じあえるのも学生時代なればこそと言えます。個人個人によって本とのかかわりは異なりますので、一口に良書といってもそれぞれです。しかし、何度も読みたくなり、その内容がずっと自分の生き方の支えとなってくれるような本が、皆さんを待っているはずです。

人生の年輪の中に書物はしっかりと入っています。そして特に青春時代に読んだ本は、何らかの形でその人の夢に繋がって行きます。そしてその時代に育んだ夢をまた何らかの形でひきずって生きて行くことになるようです。こう考えると書物との出会いの大切さを考えざるを得ません。岡山大学のシンボルとして随所に時計台の聳える図書館があげられるのは、まさしく学問の府としての姿を、そこに見出しているからです。

岡山大学の図書館は、蔵書数が130万冊に及びます。その中には、内外の定期刊行物も充分に備えています。皆さん方のどのような要求にも応えることができます。そして教職員の方々も、さまざまな助言をしていただけることと思います。この膨大な資料を眠らせることなく、存分に活用して何かをつかみ取って欲しいと思います。

選択の時代に生きる皆さんが、岡山大学の学生時代を「指示待ち族」でなく、目的意識をもった充実した日々を送られることを心から願っております。

（さかた　ひろし　教育学部解析学・応用数学　教授）

図書館で本を探すには

―分類番号って何ですか―

新入生のあなたにとって、今まで図書館とはどのようなものだったのでしょう。あまり、身近なものではなかったのではないですか？今までは、図書館にある資料を活用するのではなく席を借りにいって勉強部屋の代わりにするといった使用法が多かったのではないかと思います。

大学での生活を自分の頭で考え、手足を動かす自由な空間とするなら、図書館はそれを手助けする一つの手段として利用して欲しいと思います。図書館は、レポートを書いたり、卒論のために文献調査をするなど学習のためだけでなく、スポーツや旅など趣味に関することを調べたり、軽い雑誌を読むなど息抜きや気分転換に利用するのもよいでしょう。また、語学カセット、音楽レコードも大いに利用してください。何も持たないで図書館を訪れても、必ず何かしら得るものが図書館にはあるはずです。図書館は情報で満ち溢れています。文字や記号としての情報を生きた情報にするかしないかはあなたの利用方法に依るところが多いのです。

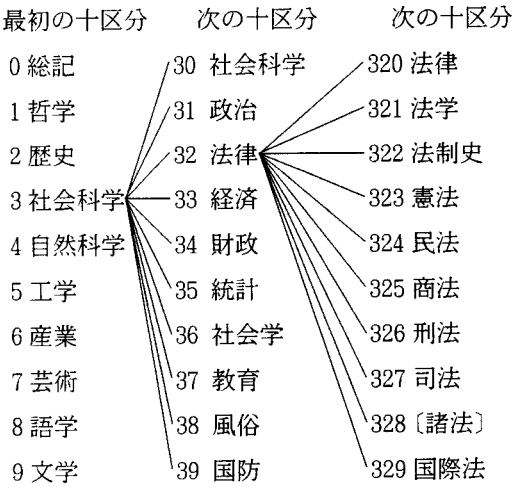
まず一度図書館に来てみてください。最初は館内を回って、本の背を眺め、気にいったものを手にとってください。最近の本の装丁はわりと凝ったものが多くなっているので、装丁だけを眺めてみるのも面白いでしょう。書架に並んでいる本をみて何か気付かれましたか？カバーが剥ぎとられて無いかわりに、ベタベタといろいろなシールやラベルが貼られているのがわかると思います。実はこの一見本の美しい装丁を台無しにしているように思われるこのラベル類、特に本の背の下部に貼られている小さなラベルが本の所在を確認する重要な役目を持っているのです。

1　図書の並びかた

図書館にある本は、書店と違って、特別のルールを定め、それに従って本の内容を数字化した記号に従って並べられています。この記号が本の背の下部に貼られているラベルに表記されているのです。本館では、日本図書館協会編集・発行の日本十進分類法（以下ＮＤＣ）という分類方法に従って、本を分類しています。

１－１　ＮＤＣ

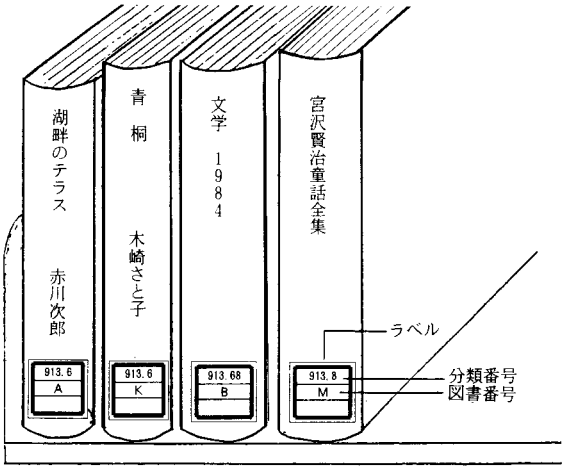
ＮＤＣは、知識の全体を９つの類に区分して１～９の数字を与え、どの類にも属さないものに０を与えて10の類を作ります。各類を細分化するには、各類それぞれを10区分してゆき、更に細分化するには同じ作業を繰り返します。



１－２　実際の並びかた

ＮＤＣによって、分類された図書の背にラベルが貼られ、図書はその番号順に並べられます。ラベルの一番上には４ケタ（例外もあります）

の分類番号が、次の段にアルファベットの図書記号が表記されています。



図のように図書は左から数字順、アルファベット順に並べられています。

2　雑誌の並びかた

雑誌もＮＤＣによって分類されています。ただし、図書と違って分類番号が２ケタになっており、数字の前に「ｚ」がついています。開架閲覧室の雑誌は図書と一緒に並んでいるものと別置されているものがあります。書庫は分類番号順に配架されています。

3　資料の配置

開架閲覧室

1階：自然科学系の雑誌

2階東側：自然科学系(理学・工学・医学・薬学・農学など)

百科事典・イミダスなどの事典類

2階中央階段付近：各種の目録・書誌

2階西側：岡山県関係

社会科学系（政治・経済・法律・社会・教育など)、歴史

3階：人文科学系（哲学・心理・芸術・スポーツ・語学・文学など）

書庫

1階：雑誌類

2階：総記・歴史・自然科学・工学・産業、旧教育学部分館図書・雑誌

3階：哲学・宗教・社会科学、旧六高図書

4階：芸術・語学・文学

4　開架閲覧室にある主な雑誌

1階：ニュートン、サイエンス、科学、科学朝日、ｂｉｔ、数学セミナー、数理科学、化学、天文、生物科学、植物と自然、保健の科学、技術と人間、公害と対策、暮らしの手帖、ガーデンライフなど

2階：部落、部落解放、都市問題、法学セミナー、判例タイムズ、法学教室、ジュリスト、受験新報、エコノミスト、経済評論、経済セミナー、週刊東洋経済、就職ジャーナル、受験ジャーナル、文芸春秋、中央公論、現代、現代のエスプリ、諸君、自由、世界、太陽、歴史評論、婦人公論、青少年問題、中等教育資料、児童心理、教育、教育心理、文部時報、アフリカ、現代の高等教育、Atlantic、Time、Willなど

3階：週刊朝日、サンデー毎日、アサヒグラフ、毎日グラフ、朝日ジャーナル、モーターファン、スクリーン、アサヒカメラ、マリ・クレール、装苑、思想の科学、理想、みづゑ、時事英語研究、レコード芸術、スイングジャーナル、FMfan、ふらんす、文学、文学界、群像、新潮など

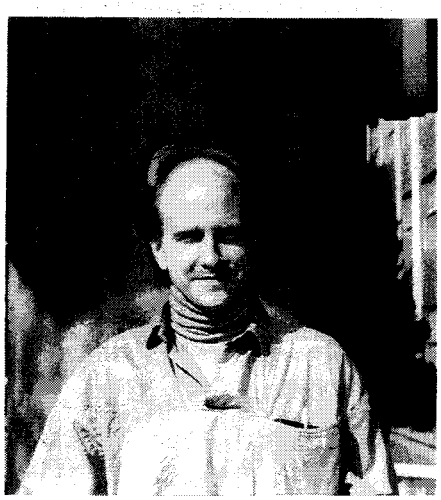
いかがですか？読んでみたい雑誌が一、二冊はあるだろうと思います。雑誌はもちろん、何十万冊にも及ぶ図書の中には必ずやあなたに影響を与えるであろう本が存在するでしょう。図書館は利用されてこそ、存在価値があります。どんどん利用してください。そして、どしどし図書館員に質問してください。そうすることによって図書館員も勉強になり、いっそう生き生きとした図書館になってゆけるのです。

（目録係　川上研三）

利用者の声

図書館についての感想文

ミネソタ大学とのちがい



実は、岡山大学の図書館についての感想文を書くように頼まれた時、書く気はなかった。なぜかというと、それは書きたくないわけではなく、逆に、大体毎日そこに行っているためだった。つまり、毎日図書館に行っているので、そこの日常的なやり方などにはすぐ慣れた。その上、そこにいる時には別に、勉強のことだけ考えるので、私としては感想というのはまるで持っていなかった。それでも、留学生なので、やはり初めの三、四回岡山大学の図書館に行った時感じた、いわゆるカルチャーショックというのを思い出した。

日本に来たばかりのある日曜日、図書館に行って、ある本を捜した。ミネソタ大学の図書館で勉強をしている時のように、ある本が一般の利用本棚に置いてなかったら、書庫で捜そうと思った。書庫に行けば、置いてある可能性が割に高いだろうと思ったからだ。しかし、そこで驚いた。岡山大学の図書館の書庫は日曜日には開いていなかった。「なんで。ミネソタ大学では図書館が開いていれば書庫も開いているのに」とショックを受けた。でも、私はすぐそれに慣れてきた。今ではそのことが頭にあるので、必要な本を土曜日に借り出すようにしている。

このことを経験した後、一週間たって借りた本を返しに行った。そうしたら、またショックを受けた。岡山大学の図書館では借り出した本を返却する時、それをカウンターに置くだけでよいと言われた。しかし、アメリカでは、そんな返却の方法では、残念ながら、本が何冊も無くなることは間違いない。ところが、日本ではそういう心配をする必要はなさそうだ（自転車は別の問題）。

以上、ショックを受けた体験を二つ述べた。が、ショックといっても、考えてみれば、それは、実はミネソタ大学の図書館と岡山大学の図書館とのやり方の違いに過ぎないことがわかった。だから、大した問題ではないだろう。

では、岡山大学の図書館についての本当の感想を言うと、そこにいる時にはまったく、「外人である」という違和感は感じられない。かえって、親しみさえ感じさせられている。みんながどんな利用者にも親切で、よく面倒を見てくれるからだ。私の大学ではそうではない。みんな無愛想だ。だから、これは岡山大学の図書館の本当に優れたところだと私は思う。

（法学部　研究生　トマス・ウェーバー）

私の本棚から

『GÖDEL, ESCHER, BACH』
D.R.Hofstadter・著
Penguin Books・刊

永遠の金モール

数学者の中でも数学基礎論を知るものは少ない。まして、数学と哲学の狭間を埋める仕事である数学基礎論を専攻するものは極少数である。このような稀有な数学者の一人、ゲーデルは真偽を決定できない命題があるという有名な「不完全性定理」を導いた。

「ゲーデル・エッシャー・バッハ」三題噺の如きものである。ゲーデルの不完全性定理を伏線にして、エッシャーの独特な絵とバッハのフーガを刺身の具に話が進んでいく。アキレスと亀による丁丁発止としたユーモアに富んだ対話で章間が埋められ次なる発展へと導いていく。その中には筆者にとっても新しい発見がある。

アキレス：　…すると彼の名前はちゃんと旋律になるわけか。

亀：　奇妙だが本当だ。事実その旋律を、彼の最も精緻な音楽作品のひとつの中に巧妙に入り込ませている…とにかくBACHはそのフーガの最後の主題なんだ。それが曲の中に隠されている。

数年前英語科の友人に、ピュリツァー賞を受賞し、アメリカで大きな話題となっていた本書の読書会に誘われた。英文学者、数学者数名ずつで始めた会は、半年余り続けられた。その後翻訳が出版されたことに加え、多忙の故半ばまで読み進んだ所で中止となり、今では読書会後の慣例となったパーティのみが続けられている。

この本の内容を　端的に暗示しているのは、表紙に描かれた「永遠の金モール」の絵であろうか。

（石川（いしかわ）　洋文（ひろふみ）　教養部数学　教授）

☆　訳書　野崎明弘他共訳　白揚社・刊

『風景との対話』
東山　魁夷・著
新　潮　社・刊

美しい散文詩

東山魁夷の作品「道」を知って、出版される小画集と魁夷の著作を手元におき、ときどき読むのが楽しみになった。「風景との対話」もその一冊である。

芭蕉に、「俳談のほかすべからず、雑談出でなば居眠りをして労を養うべし。」という言葉のあったことを覚えているが、風景画家魁夷という人もまた、美の本源をあかそうと一途に生きる人なのだろうか。

この本の口絵に「道」がある。画面の中央に、やや、ピンク色がかった灰色の道。どこまでも続く単調な一本の道。道の両側はなだらかな斜面で、青緑色の叢や丘は、灰白色の道と調和し郷愁をさそう。木は生えていない。道は突き当たったところで微かに右に折れ、低い灰色の空がかぶさる。低い丘と空の接点に、かすかな光が流れていて、この風景に希望に似た思いを漂わせている。そんな絵である。

魁夷は、この本の中で、「無言の風景との対話の中に、静かに自己の存在をたしかめながら、こつこつと歩いてゆくという生き方は、すべてが複雑で高速度の時代から外れているかもしれない。しかし、美を素朴な生の感動として見る単純な心を、私は失いたくない。」と書いている。「道」はこの画家の生き方の道であるのかもしれない。そんな思いを感じながら読み、読んでは共感を覚えるのである。

大量の情報の行き交う、多忙で複雑で変化の激しい時だからこそ、魁夷のこの姿勢が私たち読者に、自然の啓示と人間の浄福とを考えさせてくれるのであろう。美しい散文詩である。

（矢野（やの）　光雄（てるお）　附属図書館事務部長）

「奉公書」の世界

—八田庄兵衛の場合—

倉地克直

池田家文庫の岡山藩政史料のうちに、「奉公書」と称する一群の史料がある。これは、池田家の家臣たちが、家ごとに、その出自や奉公の由来、代々の勤功などを書き上げて藩に提出したもので、約3500家分＝3000冊余りが残されている。他に、途中で絶えた家の分が「除帳（よけちょう）」としてまとめられ、約300冊残されている。これも広義の「奉公書」として扱われるべきであり、あわせて、岡山藩の家臣団の情況を知るための貴重な史料となっている。

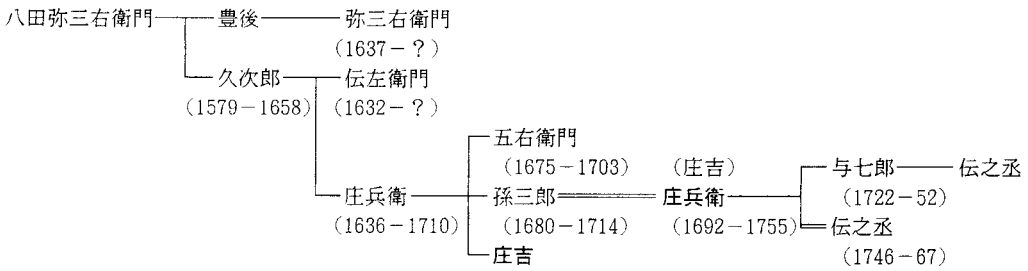
四千に近い家の二百数十年にわたる記録だから、そこにこめられたデータは厖大なものであり、多様な視角から、豊かな歴史的事実を引き出すことが可能である。この史料を使って、これまでも比較的よく行なわれてきたのは、個人史を再構成するという作業である。ここでも、その一例を示してみよう。

近世中期の岡山藩に、八田龍渓（はったりゅうけい）という徂徠学派の儒学者がいた。字（あざな）は子漢、諱（いみな）は憲章。岡山の徂徠学派といえば、『常山紀談』・『文会雑記』などを著わした湯浅常山が有名だが、その常山が30年にわたって兄事したのが、八田龍渓である。彼の生涯については、常山が「備前国執法大夫八田君墓誌」（『事実文編』巻36）を記しており、唯一の評伝である三浦叶氏の「備前古文辞派の鼻祖・田子漢」（『備前の漢学』〔自家版・1978年〕所収）も、ほぼこれによっている。龍渓は岡山藩士であったから、その「奉公書」が残っている。これによって、八田龍渓の個人史のかなりの部分が明らかになる。

八田龍渓は，幼名庄吉，後に庄兵衛と称した。まず、系図を下に示す。

曽祖父や祖父が池田家に仕えるに至った経緯も興味深いが、今は略す。父八田庄兵衛は、近習・留守居、知行200石の中堅家臣であった。その跡目は長男の五右衛門が継ぐ予定で、元禄元年（1688）に14才で御目見もすませていた。しかし、彼が元禄16年（1703）に死去したため、

〈八田家系図〉



▷八田庄兵衛の奉公書

次男の孫三郎が嫡子となり、宝永７年（1710）に庄兵衛が亡くなると、その跡を継いだ。ところが、孫三郎も正徳４年（1714）に病死し、彼に子供がなかったために、急拠、弟の庄吉が兄の養子となって、跡を継いだのである。この時、庄吉は庄兵衛と改名した。

庄吉が八田庄兵衛家を継ぐことになったのは、いわばいくつかの偶然が重なった結果であり、本人も全く予想しなかったことであろう。三男という不安定な立場にあった庄吉にとって、学問は、将来の身すぎやよりよい養子口のためといった面も、もっていたのではないだろうか。

岡山藩学校の記録である「備陽国学記録」によれば、宝永６年（1709）12月３日，18才の庄吉が「講堂ノ講釈聴聞ニ初て出」ており、正徳２・３年（1712・13）の釈菜（せきさい）にも参拝している。当時の藩学校は、朱子学派が中心であったから、庄吉も朱子学に拒否的ではなかったと思われる。

さて、庄兵衛が徂徠学に触れたのは、藩士として江戸御用を勤めた際のことであったと思われる。「奉公書」によれば、享保２年（1717）・同13年(1728)・同20年(1735)・元文４年(1739)・延享元年（1744）・同４年（1747）の６回にわたって江戸勤番をしており、それぞれ一年間程ずつ江戸に滞在している。荻生徂徠は享保13年正月に亡くなっているから、庄兵衛が徂徠に触れたとすれば、享保２年の時であったろう。この頃の徂徠は、『論語徴』などの主著を次々と著わしており、最も油の乗り切った時期であった。常山の「墓誌」によれば、徂徠没後も、太宰春台・高野蘭亭などの徂徠学派の人々と交流が続いたようである。

庄兵衛は、藩士としても極めて有能であったようで、享保11年（1726）城代浮組与頭（くみがしら）、同13年（1728）留方（とめかた）兼御廟奉行、同16年（1731）大目付、延享２年（1745）先手物頭となり、知行高も当初の150石から、晩年には350石にまで加増されている。「墓誌」は、晩年の庄兵衛が、藩主やその側近などと藩政をめぐって対立していたように記しているが、「奉公書」には、そうした影は現われていない。

「奉公書」の示してくれる一つの世界を、八田庄兵衛（龍渓）を例として少し述べてみた。現在、この「奉公書」のマイクロ化が進められており、コンピューターを使った検索システムの開発も研究されようとしている。今後の活用が楽しみな史料群である。

（くらち かつなお 文学部日本文化史 助教授）

総　務　係

総務係の正式名称は附属図書館情報管理課総務係です。中央図書館には8係がありますが、司書職つまり図書館専門職員がいない係は我が総務係のみです。図書館にあって図書館専門職員のいない係って、何を担当しているのだろうと言うことになりますね。図書館を運営しようとすると職員が必要ですが、その職員に対する庶務人事事務が、図書館に不可欠の図書資料を備えようとすれば契約関係事務が必要であり、この分野を担当しているのです。

図書館利用者に対しての直接業務はほとんどありませんが、係を紹介いたしましょう。

係の位置ですが、岡山大学のシンボルとなっている時計塔の下の玄関を入ると、左に図書館の案内図が掛けてある壁があります。この壁の奥が総務係で、壁に小さな受付窓口があります。利用者に対する唯一の業務を行うところですが、これについては後で述べることにします。それでは業務についての概略を説明します。

①庶務関係業務

毎日大量に来る公文書、郵便物の受付と仕分け、公文書の作成及び発送があります。これに伴って公印や郵便切手の管理が必要です。

また、利用者に直接関係がある付属図書館利用規程等諸規程の制定及び改廃があります。

②人事関係業務

職員の任免、給与関係、勤務時間の管理等及び健康安全管理があります。特に最近問題として提起されていることは、オフィスオートメーション化による職員の健康障害があり、視聴覚関係の健康診断が実施されています。

③経理関係業務

図書資料の購入費及び図書館運営費の予算管理、収入関係業務があります。前述した利用者と接する唯一の業務は、利用者が図書資料を利用するにあたり、文献の複写が必要となったとき、相互協力係へ依頼することになりますが、それに必要な文献複写料金を総務係の受付窓口で徴収します。

④用度関係業務

図書資料の購入契約・支払業務及び建物・物品管理業務があります。図書資料の購入では、各教官からの要求、委員会での選定等により、図書は収書係、雑誌は雑誌係において選定され、総務係が各書店と契約します。この購入においては津島地区（雑誌は全学）全てのものの手続きをすることになっており、その業務量は大きなウェイトを占めています。

以上が総務係における日常の業務です。

係の紹介とは少し外れますが、利用者が図書館を利用した際、書庫内の異様な光景に驚かれたのではないでしょうか。そうです床に図書が山積みとなっています。現在の図書館は非常に狭隘となっており、配架スペースがないのです。また、近年急速に増加したニューメディアと言われる資料関係に対する設備も不足です。これらを解消すべく新中央図書館建設構想が進められています。利用者の利用頻度、利用人員の増加が、これを押し進めるための大きな原動力となるのです。今まで以上に図書館を利用してくださるようお願いします。

電　光　掲　示　板

校費専用複写機の使用方法の変更について

利用者の利便をはかるため、校費専用複写機の使用方法を変更しました。ご利用ください。

1．従来行っていた複写の申し込みをせずに直接校費専用複写機(「相互協力係」1階)で複写できます。

2．複写に必要な「図書館専用カード」は、相互協力係で交付します。印鑑持参の上、お申し込みください。

☆相互協力係

住所変更届けについてのお願い

図書貸出券利用者で現住所・家族連絡先などに変更があった場合は図書館1階カウンターまでお申し出願います。

☆運用係

図書館ツアーへのお誘い

新入生を対象に図書館ツアーを実施します。これは、図書館に親しんでもらうための第一歩として館内を案内するものです。多数ご参加ください。西門を入って正面の時計塔のある建物が図書館です。

○日時

平成元年4月12日(水)～4月18日(火)
但し4月15日(土)、4月16日(日)は除く
13時30分～17時のうち随時約30分間

○集合場所

附属図書館1階　会議室

☆参考調査係

日　誌

63. 9. 30	昭和63年度（第2回）附属図書館運営委員会	
63. 10. 5～7	第29回中国四国地区大学図書館研究集会（於　オークラホテル高松）	
63. 11. 16	国立大学図書館協議会理事会（昭和63年度第2回）（於　京都大学）	
63. 11. 17～18	昭和63年度中国四国地区国立大学附属図書館協議会係長会	（於　松山郵便貯金会館）
63. 11. 24	図書館業務研修会（岡山県図書館協会）	（於　岡山大学）
63. 12. 20	昭和63年度（第3回）附属図書館運営委員会	
元. 1. 26～27	昭和63年度国立大学附属図書館事務部長会議	（於　鹿児島大学）
元. 1. 30～2. 3	目録システム講習会（地域講習会）	（於　岡山大学）
元. 2. 27	昭和63年度（第4回）附属図書館運営委員会	
元. 3. 15	昭和63年度（第5回）附属図書館運営委員会	

〈カット〉農学部教授　奥　八郎　　〈題字〉名誉教授　久留島　陽三

岡山大学附属図書館報　楷(かい)　No. 8　　平成元年3月
編集・発行　岡山大学附属図書館　〒700岡山市津島中3丁目1-1　電話0862－52－1111内線286